

赤星

月刊

11月2004年 No.40 (通巻382号)

本号300円 (毎月1日発行)

年間購読料 1部3000円 (送料別)
(送料) 密封1000円 開封800円

THE SEKISEI (RED STAR/ROTE STERN)

編集 共産主義者同盟 (DER BUND DER KOMMUNISTEN)

発行所 蜂起社 東京都江東区大島3-9-25/TEL 03-5626-8262
(関西支社)大阪市北区菅栄町10-10 岸本ビル/TEL 06-6357-6975

発行人 南 安明 <振替> 00120-2-1512 蜂起社・南安明

紙面案内

- ① イラク占領破綻とブッシュ再選
- ② パレスチナに自由を(7)
持たざる者の国境を越えた連帯を
- ③ 韓国労働者大会訪韓報告
- ④ 持たざる者行動/F T A 反対/反戦

お知らせ 次号は12月27日発行です。

日韓労働者の国際連帯を

虐げられし者・持たざる者は 国境を越えて連帯する！世界を変える！



(左上) 11・14労働者大会に5万人を超える
(右上) 民主労総の労働者がソウル光化門に結集
(左下) 230人が参加した持たざる者の国際連帯行動
(右下) 11・1~3 F T A 阻止に來日した韓国民衆闘争団

イラク占領の破綻とブッシュ再選

イラク戦争の是非が最大の争点となった今回のアメリカ大統領選挙で共和党のブッシュが再選されたが、米市民の政治への関心がこれほど高まったのは、ベトナム反戦運動や公民権運動が盛り上がった1960年代以来と言われる。今回の大統領選で示されたことは米世論がイラク戦争を巡って真二つに割れている事実が改めてさらけ出されたことである。ただし民主克のケリーにしたところでイラク占領政策に大差はなく中東政策における本質的な違いはない。実際、ユダヤ票はケリーの方が多く取った。イラクを米の支配の下に置くという基本戦略においてはブッシュもケリーも変わらない。嘘つき(ブッシュ)と変節漢(ケリー)のイス取りゲームにすぎないとの見方の所以である。

このようにイラク戦争を巡って世論が二つに分裂した政治的分極化とともに、米社会の持つ者持たざる者、富める者と貧しい者(貧困層は昨年、米総人口の12.5%に増大)との二極分化がさらに進んでいることが背景にある。今回の大統領選で「パレル・ワールド」(もう一つの世界)という言葉が飛び交ったことも、ブッシュの「独善的な世界」に対する反発や「本来の世界」ではないという疑念が広汎に存在することを裏付けている。

イラクで来年十月に予定されている選挙を実施することが至上命題であるブッシュ政権は、イラク占領政策の破綻を取り替うためにも、反米武装勢力の拠点とされるイラク中部のファルージャを軍力で制圧する賭けに出た。しかしそれは多数のイラク民衆を殺りくするばかりで、かえって反米意識に油を注ぐだけだ。ただでさえ脆弱なアラウィ暫定政府の政権の基礎をさらに弱めることにはならないであろう。首相のアラウィは、周知の事実だが米CIAと密接な関係にある人物であり、イラク民衆の離反に到底歯止めをかけることはできない。イラクに派兵された自衛隊もまた「占領軍の一部」と見なされ、民衆の怒りの標的になることは疑いえない。12月の派兵延長を許さず、直ちに撤兵すべきだ。

「9・11テロ事件」を受けて米ブッシュ政権は、イスラエルのパレスチナに対する侵攻・占領を、米の「テロとの戦い」と同質のものだと位置付ける一方、パレスチナの抵抗勢力を「テロリスト」と見なし、イスラエル首相シャロンは「平和の人」とたたえき、米国は「イスラエル化」したと言われる理由である。ブッシュ政権の中枢を占め、中東・アラブ世界を軍力で「民主化」できると考える(幻想を持つ)ネオコンとは、まさに親シオニスト(あるいはシオニストそのもの)である。再選されたブッシュ政権が親シオニスト色を濃くすればするほどイラク占領政策のみならずパレスチナ・中東政策の破綻は深刻化するばかりであろう。同時に世界中で反戦運動のうねりをさらに高めるにちがいない。

Freedom for Palestine! International な連帯を!

イスラエルの占領に抵抗する パレスチナに自由を!

⑦ オリーブの枝と銃を携えた アラファト議長 of 死亡を悼む



レバノン・ベイルート郊外のパレスチナ難民キャンプでアラファト議長の写真を抱えて泣く少女達 (AFP)

パレスチナ自治政府のヤセル・アラファト議長が、悲願だったパレスチナ独立国家樹立を果たせぬままパリの病院で75歳の生涯を閉じた。ヨルダン川西岸のラマッラ議長府への移送の行進には数万人の民衆が集まった。「アラブ・アンマル」(アラファト議長の名)はパレスチナ人の心に生き続ける」と地元パレスチナ紙には大見出しが躍った。

アラファト議長は、1969年にパレスチナ解放機構(PLO)の議長に就任してから35年にわたって自由と独立を求めるパレスチナの民族解放闘争を率い、文字通りその大義を体現してきた指導者であり、抵抗運動の象徴的存在であった。同時にパレスチナ人が背負われてきた多くの苦悩と困難を体現した人物でもあった。その生涯はパレスチナの苦難の抵抗の歴史そのものだった。

1948年、イスラエル建国に伴う第一次中東戦争で土地を奪われ故郷を追われて難民となって虐げられていたパレスチナ人の怒りを彼はゲリラ闘争を通じて、パレスチナ帰還と独立国家樹立を目指す民族解放運動に転化させ、民族自決の解放の理念を国際社会に認めさせた。「今日、私はオリーブの枝と自由の戦士の銃を持ってやってきた。どうか私の手からオリーブの枝を落とさないでほしい」。74年11月13日の国連総会での有名な演説だ。オリーブの枝はアラブでは平和のシンボルを意味する。「おれたちは、ここにいて」と世界にパレスチナ人の苦境を訴え希望を代弁したのがアラファトだった。難民として中東各地で虐げられていたパレスチナの人々のために独立国家樹立の大義を訴え、イスラエルに対して敢然とゲリラ闘争を挑んだPLOのリーダーにパレスチナ民衆は希望を見出した。「アラブ諸国

の指導者たちの政治と宣伝の道具になっていたパレスチナ問題をパレスチナ人の手にとりもどした」(11月13日付朝日・川上泰徳)とほ—それまでアラブの反動諸国にとってパレスチナ人はイスラエルとの政治的駆け引きの材料にすぎなかったことを考えると—彼の最大の功績と言える。

だが、90年のイラク・フセイン政権によるクウェート侵攻を支持したことによる国際的孤立を招いた誤算の後、イスラエルとの「和平路線」に転換し、87年から始まった第一次インテリファダ(反占領の民衆蜂起)によって占領の代償の大きさを味わっていたイスラエルとの間で暫定自治合意(オスロ合意)に調印した。翌94年にパレスチナ自治区に帰還。同年、イスラエル首相ラビンと外相ペレスとともにノーベル平和賞を受賞した。96年に実施された初の自治政府議長選挙では、88%の支持を得て当選した。

2000年9・28に第2次インテリファダ(イスマエルのリクード党首(現首相) シヤロンが兵を引きつけてエルサレムのイスラム教聖地アルアクサモスクに足を踏み入れたことに対する抗議行動に端を発した)パレスチナ人の抵抗運動—が始まると、ラマッラの議長府はイスラエル軍によって大半を破壊され、アラファト議長は移動の自由を奪われ死の直前まで軟禁生活を強いられた。「我々には和平への準備はあるが、降伏する用意はない」(02年9・21)と語り、最後まで闘志は衰えなかった。

一方、パレスチナの資産を一手に管理し、汚職をばら撒くなど自治政府は「PLO幹部の腐敗体質を改革しよう」とせず権威主義を強めたとの批判にさらされた。民衆は自治政府やPLOの幹部のみが豪邸を建て新車を買ってまわすなど特権を享受した「自治」(オスロ合意)の有り様を早くから失望し幻滅していた。自由と独立を求めるパレスチナ民衆から希望を託されたアラファトも、いざ政権に就くと汚職や腐敗を蔓延させ、民衆から「話が違ふ」との不信の音が上がった。いったん失望を買った政治指導者は己を正当化しだすとシッペ返しを繰り返す。かつて「パレスチナ解放闘争の象徴的存在」と言われた威信(カリスマ性)の失墜は免れ得なかった。その意味で晩節を汚してしまったと言える。

4年に及ぶパレスチナ民衆のインテリファダで、イスラエル首相シヤロンも武装勢力から入植地を防衛しにくいガザ地区からは来年末までに撤退するといふ賭けに出ることを余儀なくされた。だが、かつて元首相バラクが「和平」と引き換えに手放そうとしたヨルダン川西岸では、逆に「隔離壁」を建設しその半分を囲い込んで実質的に再植民地化(パンスースタン化)しようとする「パレスチナ分離計画」を進めている。首相府長官ワイスグラスが「ガザ撤退の意義は和平プロセスの凍結にある」、分離計画が進めば「パレスチナ国家に関する議論は必要なくなる」と語っているように、その隠された真意は明白だ。インテリファダによる連帯行動で、一刻も早くイスラエルの占領を終わらせなければならない。

時代は転換とともに、また情勢の変化によって(それがドラステックであれはるほど)、変革の担い手(主体)に求められる要件や闘い方・戦略も大きく変わる。とりわけ、今日、世界的なうねりを見せたイスラエル運動や反グローバリズム運動、国際連帯運動への大胆な取り組み、インテリファダが重視されていることは、このことを立証している。こうした点で自ら、国境を越えた連帯行

動によってより一層、団結する努力をしなければならぬ。虐げられし者・持たざる者の国境を越えた連帯行動は、反グローバリズム運動の「拠り所」、世界を変える希望となるであろう。

虐げられし者・持たざる者が国境を越えて連帯すること、怒りを絶望ではなく闘志に、苦しみを悲しみではなく団結に、変えることができるのだ。「虐げられし者・持たざる者は、国境を越えて連帯する世界を変える」これが我々の闘いの合言葉だ。

社会の底辺に虐げられし者の草の根に深く分け入り、パレスチナや韓国、そして全世界のプロレタリア民衆と共に怒りを分かち合い連帯すること、そうすることを通して「闘いの中に生きていくことを全身で感じている」(韓国労働歌「鉄の労働者」の一節)ことができなければ、困難を乗り越えていく「希望」が見え、苦しみを「団結する力」に変えていくことができるだろう。

たとえ長く険しい道程であつたとしても、どんな試練があつても、心に革命への「希望と理想と情熱」の火を絶やさない限り、帝国内主義・グローバリゼーションに抗う闘いの炎をどこまでもラディカルにインテリファダに燃やし続けたいけるにちがいない。

自らの「闘志と団結心」を不断に磨き鍛えながら、プロレタリアの団結と解放に生きる「前衛闘士(赤い星・ミリタント)」たれ!

〈横渡〉

持たざる者の国境越えた連帯が世界を変える!

11・12~15 韓国訪問

ゼネストに立つ韓国労働者大会



(上) 11月13日、労働者大会前夜祭で登壇した日本の訪韓団（ソウル・東国大学）
(中) 11月14日、ソウル光化門の路上を占拠して開催された全国労働者大会
(下) 全国から結集した5万人を超える労働者がゼネスト突入を宣言

建設産業労組と山谷
争議団の交流会実現
11月12~15日、全泰壹
(ジョン・テイル) 焼身決
起34年全労組大会へ
の参加と韓国民主労組との
交流・連帯を深めるべく、
02年、03年に続いてアジア
共同行動(AWC)日本連
呼びかけによる訪韓団へ
参加、韓国を訪問した。

主労総は、非正規労働者差
別撤廃を掲げてこの11月26
日にゼネストに立つ。その
て、スト権を認めない公務
員労組法案阻止のために公
務員労組が15日、統一スト
に突入。さらに韓日FTA
(自由貿易協定) 阻止、国
家保安法廃止イラク派兵
延長阻止もスローガンに挙
げられている。

初日の夜には早速歓迎交
流会が催され、多くの民主
労組のメンバーが参加して
弾圧に抗し、非正規労働者
が自らの死をもって抗議す
るという中での怒りと悲し
みに包まれた大会だった。
今年の大会スローガンは、
「1500万労働者の未来
に対する希望へよりの大き
き一歩」。「鉄の労働者(チ
ョン・ノドンジャ)」を合
唱、再会を約束して終了。
有意義な交流会となった。
翌13日は、貸切バス
でジョンテック(平澤)の米
軍基地拡張反対運動の現場
を訪問する。ここには、広
大な敷地の米軍基地があ
り、それに倍する土地(田
畑)を新たに接収して基地
の拡張・再編強化が画策さ
れている。

武器に、反戦の志をもって
不屈に闘う住民たちの気概
に沖繩や三里塚に通じるも
のを感じた。
夕方、ソウルの4・19
革命記念館を見学。夜は毎
年恒例の労働者大会前夜祭
に参加するため、東洋大に
向かう。メイン会場の野外
ステージの周辺には大小の
テントが張り、交流会で
盛り上がる。夜の九時、寒
さを吹き飛ばす数千人の熱
気の前夜祭がスタート。多
彩な歌で盛り上がりは最高
潮に。日本からの参加者は
全員壇上上がり、その横
では日本でのFTA反対闘
争のビデオが大きなスクリ
ーンに映し出され、11月3
日の「持ちこたえろ」の行動の
インストリートを全面占拠

労働者の闘魂でゼ
ネスト突入を宣言
14日は、朝から晴れて最
高の労働者大会日和に。午
前中は、国会議事堂近所の
テント籠城闘争の現場を訪
ねる。公務員労組、マスコ
ミ、非正規労働者、「障
害者」、民主労働党、全国教
職員労組、韓総連の学生な
ど数々のテントで長期にわ
たり闘い、ハンストが続け
られている。その中で、国
家保安法廃止を訴える全国
約250の団体が構成され
る運動体のテントで籠城中
のメンバーに話を聞いた。

代表は、「権利を勝ち取る
ためにストライキの先頭に
立つて闘う」と、鉄道、貨
物、タクシーなど運輸関連
同闘争へ。トゥッセン!

闘いの中に いきていることを 全身で 感じる! (トウジェンゲ サライッスムル オンモムロ ヌッキヨボセ!)

韓国の闘う労働組合のナ
ショナルセンターである民
主労総(全国民主労働組合
連盟)は、今日、世界で
最も戦闘的で「ラディカル
な労働運動の極」(D・ペ
ンサイド)の一つに挙げら
れている。そのラディカル
さ・強さの根拠はどこにあ
るか。それは、「私の死
を無駄にするな」と叫び
自らの命を絶つてまで弾圧
に抗議した(1970年11
月13日)全泰壹(ジョン・
テイル)の遺志を引き継ぎ
「ジョン・テイルは、今も
我々労働者の闘いの中に生
きている」「彼の死を決し
て無駄にするな、忘れるな
!」という思想を背負って
によって、労働者の魂を揺
さぶる怒りを呼びさましな
がら弾圧に耐え闘争を前進
させてきたところにある。

民主労総は、このジョン・
テイルの精神を自らの労働
運動の思想的原点に据えて
幾多の弾圧を乗り越えて闘
ってきたのである。ここに韓
国労働運動の最大の特徴が
あり、世界の労働運動の中
でも他に例がないほどのラ
ディカルさを発揮してきた
根拠がある。我々が民主労
総との連帯を通じて何より
も学ぶべき点は、こうした
運動思想であろう。

11月1日から3日間わ
たって日韓自由貿易協定
(FTA) 政府間交渉に反
対する闘いに民主労総を中
心に約百人の韓国民衆闘争
団が来日、日韓労働者の国
境を越えた連帯行動によっ
てFTA阻止ノグロバリ
ゼーション反対の闘いが
展開された。おそらく、こ
れだけの規模(百人近く)
の韓国の労働者民衆が日本
に来て共に闘いを組むとい
うことは、これまでの歴史
でかつてなかったことだ。
労働者民衆の国際連帯に
つて、またノグロバリ
ム運動にとつて、この日韓
FTA阻止の闘いは、決定
的に重要であり、歴史的な
意義を持つ闘いである。今
回11月の闘いは前哨戦に
すぎない。本格的な闘い
を無駄にするな、と叫び
我々の国際連帯の真価が
ますます問われる。

外務省前での抗議行動の
中で民主労総の遠征団メン
バーは次のようなメッセ
ジを発した。
「我々労働者は、日韓F
TAを通して政府・資本が
労働力の流動化政策を推し
進めようとしていることに
対して黙ってみているわけ
にはいかない。現実がいかに
厳しいからといって避け
ることはできない。次の世
代のために我々は多国籍
企業の横暴と闘っていか
なければならない。」「我々
韓国の労働者民衆の中には
過去の歴史に対する複雑な
気持ちがある。だが、この
日韓FTA交渉に反対する
闘いを通して日韓の労働者
民衆は過去の歴史を乗り越
え政府・資本に対して共に
闘うことができることを実
感している。」

また11・3の持ちこたえろ
の国際連帯行動に参加した
民主労総メンバーは「闘わ
ない民衆は何も勝ち取れな
い。我々はWTOやFTA
反対のために何が必要かを
学んだ。万国の労働者が団
結してこそ、はじめてWTO
やFTAを粉砕できるとい
うことだ」とアピールし
た。団結し闘いの中に生き
ていることを全身で感じて
こそ希望は見える。

11・3 「持たざる者」の国際連帯行動に230名



(上)11・3「持たざる者」の国際連帯行動

野宿労働者を先頭に渋谷をデモ行進する「持たざる者」の隊列

(中)(下)11・1~3日韓FTA反対行動

外務省に向けシュプレヒコールを叩きつける韓国民衆遠征闘争団

11月3日、渋谷の街頭に「排除するな」「グローバリゼーションと戦争にNO」「持たざる者」が加えてアピールするという、今までになく共同行動が実現した意義は大きい。集会は、恵比寿区民会館で行われた。山谷労働者福祉活動委員会メンバーが主催する「持たざる者」の国際連帯行動が、昨年の倍、約300名の結集を勝ち取った。とりわけ11月1日から韓FTA阻止闘争を闘ってきた韓国民主労働組合をはじめとする韓国連帯行動が20名以上も参加し、その中で韓国民主労働組合の代表が、国際連帯行動の意義を述べた。また、釜山労働組合連帯会の代表も、韓FTA阻止闘争の意義を述べた。また、釜山労働組合連帯会の代表も、韓FTA阻止闘争の意義を述べた。

日韓FTA反対!

11・1~3 韓国民衆遠征闘争団と共に 外務省に怒りと抗議を叩きつける

11月1日~3日、東京・外務省で行われた日韓FTA(自由貿易協定)第6回交渉に反対する日韓共同行動に約200名が結集し、直ちに外務省に抗議のシュプレヒコールを叩きつけた。韓FTA反対の共同行動に約200名が結集し、直ちに外務省に抗議のシュプレヒコールを叩きつけた。韓FTA反対の共同行動に約200名が結集し、直ちに外務省に抗議のシュプレヒコールを叩きつけた。

沖縄・辺野古の海を守れ

11月16日、沖縄・辺野古において那覇・防衛施設局によるボーリング作業の準備作業を阻止した。現地では300名以上が駆け付け、海上で陸上阻止行動が繰り広げられた。200日を越えた座り込みをふまへ、闘いは連日続けられている。新基地建設を止める闘いに連日参加。毎週防衛庁抗議行動を闘い、12月11日宮下公園(午後2時)に結集しよう。

10・16反戦集会 安次富浩さん講演

10月16日、東京・渋谷の水川区民会館において反戦闘争主体の反戦集会が70名を結集して開かれた。集会では、安次富浩さんが講演し、「戦争は避けられないからではないのか」と突きつけた。各連帯アピールを受け、宮下公園までデモ行進した。11月18日には、夕刻より日比谷公園前にて緊急の抗議集会が持たれた。臨時国会での審議入り許さず、廃案に追い込もう!

共謀罪審議阻止へ ハンスト闘争貫徹

10月20日から22日、臨時国会における「共謀罪」の審議入りを阻止するべく、58時間のハンストが闘われた。ハンストは、朝から夕方までは国会前の歩道で、夜間は日比谷公園にて闘われてきた。22日夕刻には、国会前で集約集会もたれ、「共謀罪」の成立を何としても阻止しようとした。11月8日には、早稲田の日本キリスト教教会にて、アメリカのMWM(労働者大行進)に参加・交流してきたメンバーの報告集会が開かれた。また11月18日には、夕刻より日比谷公園前にて緊急の抗議集会が持たれた。臨時国会での審議入り許さず、廃案に追い込もう!